

故 手嶋正毅先生追悼の言葉

経済学部長 足 立 政 男

去る八月十三日に御逝去された手嶋正毅先生の追悼文を執筆するにあたって、私は、今言ひしれない深い悲しみに打ちひしがれております。

おもうに、冷厳な理性と灼熱の情熱、鉄石の意志をもっていらっしゃった先生、加うるに頑健そのものといつてよいような強靱な身体をもつていられた先生、その先生が私達と幽明境を異にすることにならうとは夢にも思つていませんでした。

如何に前世からの宿命とはいえ、経済学部長のポストにつかれ、経済学部としてこれからという大いなる期待と望みを先生にかけていただけに、先生を喪つたことは、わが経済学部にとって最大の痛恨事であり、残念の極みであります。まったく天を恨みたくなる思いであります。

先生は横浜市に生まれられ、一九三五年三月京大経済学部を卒業後、満鉄に入社、その才能と情熱を傾けて中
国大陸の調査、研究に従事され、終戦帰国後も、更に調査、研究、教育生活を続けられ、数多くの貴重な業績を残されております。一九六四年四月、本学部教授として先生を広島大学からお迎えして以来、日本経済論を御担当になり、その研究成果は活目すべきものがあり、その業績表にも見られるように、国家独占資本論に関する数

多くの著書、論文をマルクス経済学の立場から著作され、国家独占資本理論分野における開拓者の先駆者として学界に貴重な功績を残されました。

また学生の教育にも人一倍尽粹され、殊に学園の正常化のためには日夜をわかたず奔走されました。理論家であり、かつ実践家であった先生はさらに、京都府教育委員としても教育行政に大きな足跡を残され、後学の士に実に貴重な指標と激励を残されております。

こんなに貴重な先生を喪ったことは、わが学部にとって言葉にいいつくせない損失であり、痛手であります。私達は、先生の御生前における業績をたたえると同時に、一刻も早やく幾多の業績や御遺志をうけつぎ、さらにそれを発展させていくべく固い決意をもっています。お別れに臨み、そのことを先生の御霊前に御報告かつ御誓い申し上げ、ここに謹んで先生追悼のことばといたします。

手嶋正毅先生どうか安らかにお眠り下さい。

一九七〇年十月